

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成26年12月～平成27年2月の運転・利用実績

SPring-8は12月2日から12月19日までセベラルバンチ運転で第7サイクルの運転を行い、1月13日から2月17日までセベラルバンチ運転で第8サイクルの運転を実施した。第8サイクルでは軌道変動によるアボート等による停止があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間(ユーザータイム)内での故障等による停止時間(down time)は、第7サイクルは0%、第8サイクルは約0.7%であった。

放射光利用実績については、実施された共同利用研究の実験数は、第7サイクルは合計197件、利用研究者は974名で、専用施設利用研究の実験数は合計129件、利用研究者は555名であった。第8サイクルは合計408件、利用研究者は1,852名で、専用施設利用研究の実験数は合計287件、利用研究者は1,108名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第7サイクル (12/2 (火)～12/19 (金))

第8サイクル (1/13 (火)～2/17 (火))

(2) 運転時間の内訳

第7サイクル

運転時間総計 約408時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約48時間

②放射光利用運転時間 約359時間

③故障等による down time 0時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)

に対する down time の割合 0.0%

第8サイクル

運転時間総計 約838時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約119時間

②放射光利用運転時間 約714時間

③故障等による down time 約5時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)

に対する down time の割合 約0.7%

(3) 運転スペック等

第7サイクル (セベラルバンチ運転)

・ 11/29-filling + 1 bunch

・ 203 bunches

第8サイクル (セベラルバンチ運転)

・ 1/14-filling + 12 bunches

・ 203 bunches

・ 203 bunches

・ 11/29-filling + 1 bunch

・ 入射は電流値優先モード (2～3分毎 (マルチバンチ時) もしくは20～40秒毎 (セベラルバンチ時)) の Top-Up モードで実施。

・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

・ 軌道変動によるアボート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第7サイクル (12/3 (水)～12/18 (木))

第8サイクル (1/15 (木)～2/16 (月))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 19本

理研ビームライン 9本

加速器診断ビームライン 2本

第7サイクル

共同利用研究実験数 197件

共同利用研究者数	974名
専用施設利用研究実験数	129件
専用施設利用研究者数	555名

第8サイクル

共同利用研究実験数	408件
共同利用研究者数	1,852名
専用施設利用研究実験数	287件
専用施設利用研究者数	1,108名

◎平成27年2月～3月の運転・利用実績

SPring-8は2月18日から3月31日まで年度末点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を行った。

◎平成27年4月の運転・利用実績

SPring-8は4月2日から4月24日までセベラルバンチ運転で第1サイクルの運転を実施している。

第1サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

SPring-8は4月25日から5月5日まで春の点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を行う予定である。